



-4大学連携-

山岳科学特別教育プログラム

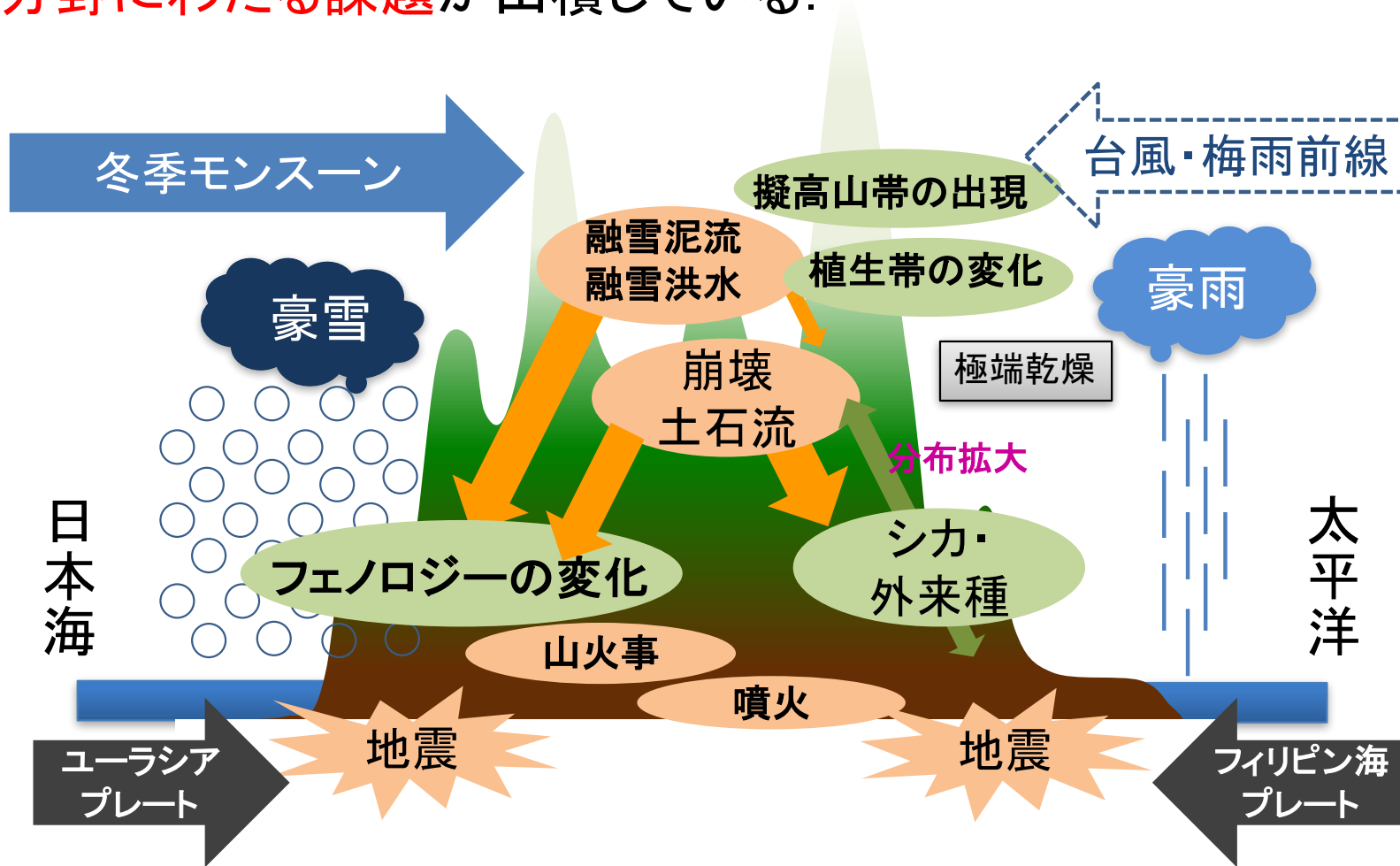


 山梨大学生命環境学部
大学院生命環境学専攻
UNIVERSITY OF YAMANASHI
Faculty of Life and Environmental Sciences, Graduate School

問合せ先: 地域環境マネジメントコース
岩田智也 (tiwata@yamanashi.ac.jp)

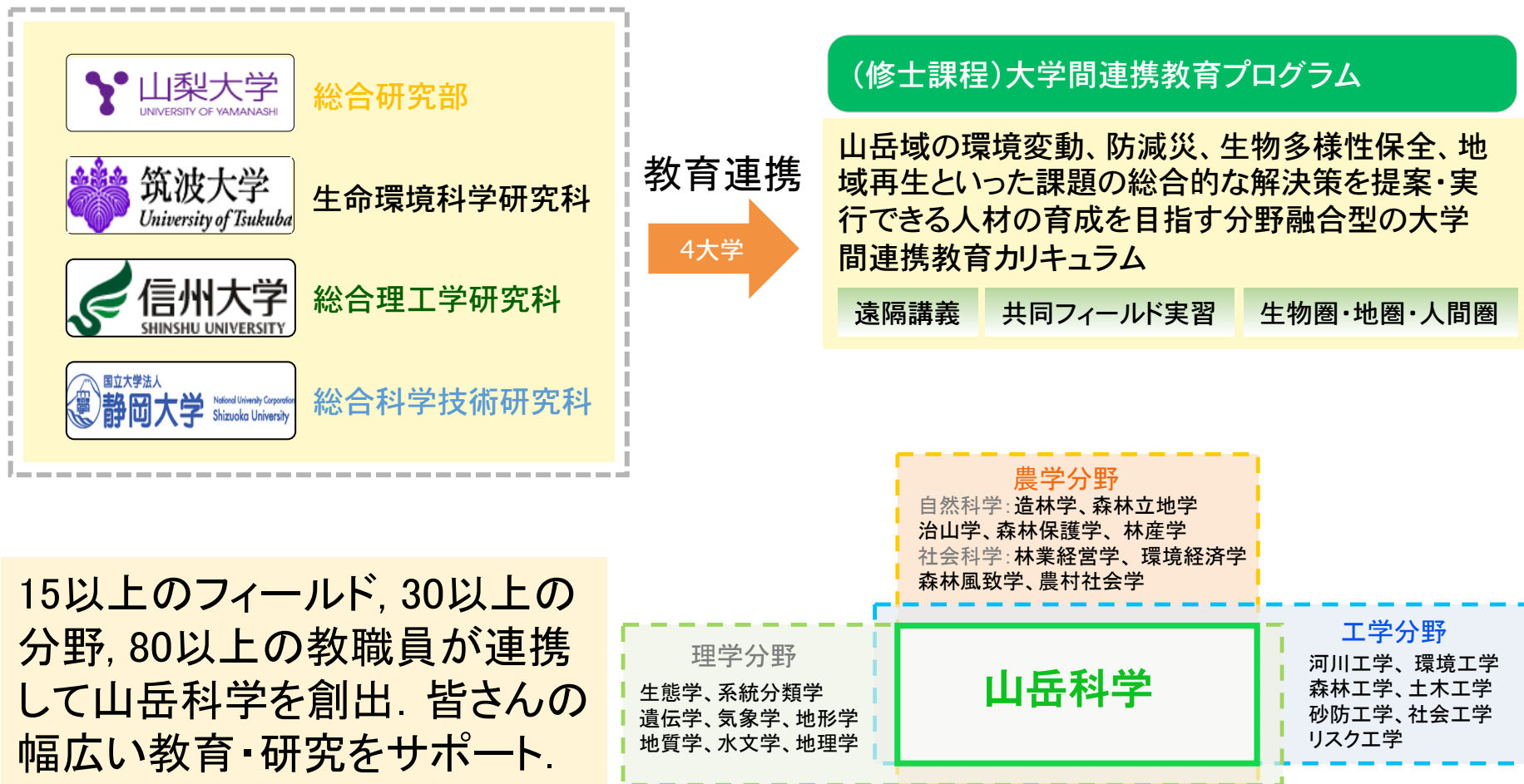
山岳科学が挑む多くの課題

わが国の山岳域には、長期的かつ突発的な環境変動が存在するうえに、地域によって応答も大きく異なるため、**地域ごとに多分野にわたる課題**が山積している。



特色：既存の枠を超えた教育研究体制

中部山岳域にフィールド拠点をもつ4大学が結集し、山岳域が直面する諸課題に対応するための「山岳科学」を創出。



本カリキュラム案は変更の可能性がります。詳細は、山岳科学特別教育プログラム担当 教員(岩田: tiwata@yamanashi.ac.jp)にお尋ねください。

大学院医工農学総合教育部修士課程
生命環境学専攻(地域環境マネジメントコース・山岳科学特別教育プログラム)

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	備考		
大学院 共通 科目	GSC501	科学者倫理	1	●(山梨大学)		
	GSC502	キャリアマネジメント	1	◎(山梨大学)		
	GSC503	サイエンスコミュニケーション	1	◎(山梨大学)		
専攻 共通 科目	GLC501	生命環境学特論	2	●(山梨大学)		
	GLC502	応用生命環境学特論	2	●(山梨大学)		
	GLC531	生命環境学演習A	1	●(山梨大学)		
	GLC532	生命環境学演習B	1	●(山梨大学)		
	GLC551	生命環境学研究A	2	●(山梨大学)		
	GLC552	生命環境学研究B	2	●(山梨大学)		
	GLC571	インターンシップ I	1	(山梨大学)		
GLC572	インターンシップ II	1	(山梨大学)			
地域環境 マネジ メント コ ー ス 科 目	専 門 科 目	山岳科学概論 A	1	○1(山梨大学)		
		山岳科学概論 B	1	○1(山梨大学)		
		山岳フィールド実習 A	1	○1(山梨大学)		
		山岳フィールド実習 B	1	○1(山梨大学)		
		山岳環境インターンシップ I	1	○1(山梨大学)		
		山岳環境インターンシップ II	1	○1(山梨大学)		
		山地陸水環境学特論	2	○2(山梨大学)		
		山地生物多様性特論	2	○2(山梨大学)		
		水圏植物学特論	1	○2(山梨大学)		
		野外水圏植物学実習	1	○2(山梨大学)		
		大気環境動態解析特論	1	○3(山梨大学)		
		山岳大気化学特論	1	○3(山梨大学)		
		環境資源経済学特論	2	○4(山梨大学)		
		防災教育特論	1	○4(山梨大学)		
		専 門 発 展 科 目	GLR647	地域環境マネジメント演習A	1	●(山梨大学)
			GLR649	地域環境マネジメント演習B	1	●(山梨大学)
			GLR651	地域環境マネジメント研究A	2	●(山梨大学)
			GLR653	地域環境マネジメント研究B	2	●(山梨大学)
			GLR655	研究発表A	1	(山梨大学)
GLR657	研究発表B	1	(山梨大学)			
他 コ ー ス 科 目	関 連 科 目	フィールド安全管理学	1	○1(筑波大学)		
		資源生物管理学	2	○2(筑波大学)		
		植生地理学	2	○2(筑波大学)		
		植生学	1	○2(筑波大学)		
		Vegetation Science	1	○2(筑波大学)		
		土壌生成論	2	○2(筑波大学)		
		生態系生態学	1	○2(筑波大学)		
		菌類多様性野外実習	1	○2(筑波大学)		
		節足動物学野外実習	1	○2(筑波大学)		
		環境フィールド実習	1.5	○2(筑波大学)		
		山岳森林生態学実習	1	○2(筑波大学)		
		山岳高原生態学実習	1	○2(筑波大学)		
		森林生態学演習	2	○2(静岡大学)		
		造林学特論	2	○2(静岡大学)		

		Field Lecture in Temperate Forest Ecosystems around Mt. Fuji	2	○2(静岡大学)
		緑地環境評価学特論	2	○2(信州大学)
		野生動物フィールド演習	1	○2(信州大学)
		菌類共生科学特論	2	○2(信州大学)
		植物資源生産学特論 II	2	○2(信州大学)
		生産環境システム学特論 I	2	○2(信州大学)
		山岳気象学	1	○3(筑波大学)
		山岳地形学	1	○3(筑波大学)
		侵食地形論	1	○3(筑波大学)
		極域地形学	1	○3(筑波大学)
		Slope geomorphology and hazards	1	○3(筑波大学)
		山岳地形海外野外実験	2	○3(筑波大学)
		流域圏水循環学	1	○3(筑波大学)
		水環境論	1	○3(筑波大学)
		Remote sensing	1	○3(筑波大学)
		山岳地質学	1	○3(筑波大学)
		砂防工学特論	2	○3(静岡大学)
		砂防工学演習	2	○3(静岡大学)
		Environmental Remote Sensing	2	○3(静岡大学)
		山地保全学特論	2	○3(信州大学)
		地域資源保全学特論	2	○4(筑波大学)
		流域総合管理論	2	○4(筑波大学)
		Applied Environmental Ethics	2	○4(筑波大学)
		山岳観光学	1	○4(筑波大学)
		環境共生学特論	2	○4(信州大学)
		地域環境計画学特論	2	○4(信州大学)
		生物・食資源生産学特論	2	○4(信州大学)
		食と緑の科学特論	2	○4(信州大学)
		サステイナブル建築設計学	2	○4(信州大学)
		建築保存再生設計学	2	○4(信州大学)

(注)

- は必修科目であり、その全ての単位を修得しなければならない。
- ◎は選択必修科目であり、2科目のうち1科目1単位以上を修得しなければならない。
- コース科目の選択必修科目として、専門基礎科目(○1)、生物圏科目(○2)、地球圏科目(○3)、人間圏科目(○4)の各領域から2単位以上、計12単位以上を修得すること。
- 10単位を上限に関連科目に掲げた連携大学(筑波大学、信州大学、静岡大学)の開設科目で修得した単位を、本プログラムにおけるコース科目の選択必修科目を修得したものとみなすことができる。
- 上記履修方法に従い30単位以上を修得し、修士論文の審査および最終試験に合格すること。